

Into my Packet



後藤滋樹の

## 新・社会楽

後藤滋樹  
goto@goto.info.waseda.ac.jp  
早稲田大学 理工学部 情報学科

## 第66回「変化のスピード」

## 【ドッグイヤーというけれど】

インターネットの変化は激しい。それをたとえて、「ドッグイヤー」という表現をよく耳にする。直訳すると「犬の年」となる。人間の1年間は犬の7年間に相当するという。つまり、インターネットは1年間に従来の7年間に相当するような変化を遂げる。

実際にインターネットは急激に普及している。2000年1月現在でインターネットに接続されているコンピュータの総数(日本)は、2,636,541台であるという(Network WizardsおよびInternet Software Consortium 調べ)。これを1年前の1999年1月の数値1,687,534台と比べると1.56倍となっている。伸び率は相変わらず高い。

このような変化によって、社会全体が産業革命に匹敵するような変革の時代を迎えている。その兆候は社会のいたるところで現れている。その一方で、世の中には相変わらず旧態依然とした組織、制度、設備、そして人間が残っている。

本誌の読者のように先進的な人々のなかには、古い体制や古い人を相手に闘っている方々も多いと思われる。どうしてうちの部長は何もわかっていないのだろう。



## 【頭脳と電子回路との違い】

頑固な人を「頭が固い」という。現実には、すべての人間は頭が固い。人間の頭脳は電子回路ではない。今晚リセットするというわけにはいかない。また急いで知識を身に付けようとしても、ファイルの内容を瞬時に頭脳にダウンロードすることはできない。誰でも学生時代の試験勉強の最中に、書物の内容をすっぱり頭の中に入れる方法を空想したことがあると思う。そのような夢の技法はいまだに存在しない。

人間の頭脳は蛋白質である。記憶も学習も化学変化を伴う作用だ。その反応速度はとても遅い。このような人間が電子回路と共生している事実のほうが驚くべきことだと思う。人間の反応のスピードが遅いのは、ある意味で物理的で化学的な限界である。これは打破できない。

## 【自動的なブレーキ】

人間の反応速度が遅いとすれば、社会が急激に変化するの危険なことだ。先進的な人がどんどん前進すると、マラソンの走者の列のように、前後の差が開いてくる。いったん差がつくと、時間とともに差が拡大する。社会の先頭走者と末尾の走者の距離が開いてくると、社会全体が拡散する。

この現象はアメリカ社会を見ると実感できる。社会のトップと底辺の差が大きい。トップは情報に恵まれている。情報を活用する方法も身に付けている。底辺ではインターネットへのアクセスもままならない。情報の内容の差を問う以前に、情報の多少の差が問題となる。

そのような社会がはたして望ましいといえるのか。情報の貧富の差を拡大するのはマズイという意見がある。いわゆるデジタルデバインド問題だ。しかしながら、差を付けないように全体の進行を遅らせてしまうと、時代遅れの護送船団方式になってしまう。

実際は護送船団のような規制を設けなくても、人間社会はうまくできている。つまり先進的な人々の活動には、自動的にブレーキがかかる。これは実に自然に巧妙にできている。先進的な人々には多くの質問が寄せられる。取材もある。出演依頼もある。これらは社会的に意味のある活動ではあるが、ブレーキの作用がある。先端的な分野には多くの委員会が設置される。これは社会的な合意の形成のためには大切な活動であるが、先進的な人々の時間を奪う。

## 【孤立するな、健康第一で行こう】

私は、以前に岩波書店編集部の中宮久雄氏と話をしたことを覚えている。私が「出版社というのは因果な商売だ。多忙な人に執筆依頼をする。忙しい人をさらに忙しくすると、社会的なバランスを崩して不安定になる」というと、中宮氏が答えていわく「そんなことをいったって、暇な人に執筆を依頼する出版社というのはいりませんよ」。

先進的な人々は、頑固な旧守派と闘い、時間を削られて苦戦を強いられる。世の中は不合理だと嘆きたくなる。しかし、先進的なグループが世の中ではるかに先行してしまうと、世の中から遊離する。そうなると情報が伝わらない。話が通じない状況に陥る。そして社会的な意味が失われる。あまりにも先行したアイデアは誰も理解できず、画期的すぎる製品は売れない。

世の中に先行する人は、自分たちが社会から遊離しないように留意すべきだ。理解者層を育てる必要がある。必ずしも自分自身で宣教したり走り回ったりしなくても、協力してくれる仲間を募ればよい。

いずれにしても、社会の変化は予想以上に時間を費やす。ドッグイヤーの教訓を逆向きに読むと、犬は早死する。この変化の時代は、思ったよりも長年にわたる。お互いに健康第一で暮らしたいものだ。

Illustr : Harada Kaori



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)